

「ロータリーの綱領」の和訳について

ガバナー協議会・綱領等翻訳問題調査研究小委員会 鳥居 滋

異論の多い「綱領」の翻訳

「ロータリーの綱領」の和訳については、これまで多くのロータリアンがご意見を出されてきた経緯がある。そういった意味では適時に取り上げられたテーマではないだろうか。

ガバナー就任早々、クラブ訪問を始めたころ、例会の出席者全員で毎回「綱領」を唱和しておられたクラブが何か所かあった。その折に、現在の「綱領」はわかりにくく、なんとかならないかという質問や内容についての問いかけを受けたことがある。私も、現在の「綱領」は、平易な日本語にはなっていないのではないかと常々思っていた。ロータリーの綱領がわかりづらいことは、とりもなおさず、ロータリーがわかりづらいことではないのか。そこで、「綱領」をもっとわかりやすくするための調査・研究が不可欠と考えた。

われわれがクラブに新しい仲間を迎え入れるとき、「ロータリーは何をすることで？」という質問に答えねばならない。その答えとして、「綱領を見ればわかる」と言いたいところだが、そうはいかないところに問題がある。実際、これまで、多くのロータリアンが綱領の翻訳について異論を出されているのも事実だ。

ところで、綱領の翻訳問題は、時間をかけて取り組む問題で、単年度責任制をとるロータリーの仕組みにはなじみにくい側面がある。そこで、腰を入れた取り組みには、調査研究機関として、一昨年発足したガバナー協議会が最適であると考えた。このガバナー協議会は、日本や国際ロータリー(RI)に関わる諸問題の調査研究を行い、その情報を求められれば、RI理事および役員に提供するという性格をもった、ある種の黒子役を務めるシンク

タンク的組織と理解することができるだろう。また、この組織は、日本のロータリーのガバナー会傘下にて活動するものと位置づけられる。早速この協議会において、綱領等、翻訳問題調査研究小委員会が立ち上がり、当委員会の委員は協議会の承認を受けて活動を開始した。

一昨年のロータリー研究会の期間中に第1回の委員会を開き、それ以降の委員会はネット会議の方法で行うことを決めている。このような委員間の意見交換とは別に、現時点での日本のロータリアンの「綱領」についての意識調査も、今後の委員会の調査研究には必須事項ということになり、今回、全クラブを対象にアンケート調査を実施した。

「綱領」翻訳の見直しについては、エドウィン・フタ事務総長から、英文の原典を変える問題ではないので、「皆さんの総意をRI理事から理事会に提案していただければ、日本語課に話を通しましょう」とのお話をいただいている。また、当時の近藤理事エレクトからは、「私の理事の任期中に、この懸案の問題を取り上げ、広くご意見を伺いたい」との意向をいただいた。

アンケートを実施

2010年7月に、近藤雅臣RI理事のロータリー研究会事務局から、各クラブ宛てにアンケートが配信され実施された。結果については、ロータリー研究会で報告したが、本稿では、それ以降の回答も含めて集計している。総回収クラブ数は11月30日現在1,582クラブ(回収率:68.75%)となった。各クラブの多大なご協力のご支援に深く感謝申し上げたい。

今回のアンケート調査は、1部と2部に分かれている。1部で、クラブでの「綱領」の取り扱い方について、また、

2部では「綱領」の文章の中で問題となりそうな語彙を一部選んで設問としている。

設問1-1では、「綱領」についてのロータリアンの関心度を聞いた。クラブとしては、「綱領」を積極的に取り上げているところは、36%程度で、意外に関心が高くないことがうかがえる。

設問1-2では、ロータリアン個人として「綱領」についての関心の持ち方を問うている。アンケートの回答者は、日ごろ「綱領」について、少なからず関心をお持ちの

方々からの回答と推測されるが、それでも、「特に関心を払っていない」との回答が約60%とかなり多く、「綱領」への関心の薄さがここでも目立ち、その原因を考えるとという宿題が残されている。

設問1-3では、現在の「綱領」の和訳が理解しやすいかどうかについて聞いている。それによると、内容をすんなり受け止めておられる方が33.3%で、残りの60%近い方々は、わかりづらいとか、真意が伝わりにくいか、なんらかの改善が望ましいと答えている。このことは、翻訳問題調査研究小委員会が提起した「綱領をわかりやすくする」ことの必要性を示唆しているものと考えられる。

設問1-4では、現在の「綱領」の修正に手を着けるかどうかを問うている。修正の必要はないと回答された方が17.5%、多少問題があってもそのまま継承したいという方が34.7%、定款はロータリーの要の文章だから、よくわかるように修正すべきだとの方が47.5%であった。このように、修正派は非修正派の約3倍ほどだが、3分の1のロータリアンは、問題ありとは思うがこのまままでと回答している。これからの意見調整が求められている課題が、ここに浮き彫りにされている。

次の2部は、「綱領」に使用されている特定の語彙についての設問である。設問2-1では、「Object」について、これを「綱領」と訳すか、「目的」と訳すかを聞いた。結果は、「ロータリーの設立目的」を明確にする意をくんだ、「目的」と訳す方が好ましいとする意見がやや多かった(50.3%)。

次に、設問2-2では、原文の「the ideal of service」は、現在「奉仕の理想」と和訳されているが、この和訳については、このままでよいという意見および慣れ親しんだ「奉仕の理想」を続けたいという意見を合わせると70%近くになる。「service」の和訳については意見が多いにもかかわらず、現状では、現在の「奉仕の理想」に取って代わる和訳が見つからない実情があるようだ。

設問2-3では、原文の「to encourage and foster」に関するもの。どちらも「促進する」という意味をもつ類似語で、2語を連ねて強調的に使用している。この句を和訳することについての質問であり、和訳の例として、1)二つの類似語を並べた強調表現とするか、2)「鼓吹」という和訳で強調するか、3)ロータリーで汎用される「奨励」とするか、その他の訳も含めて、意見を聞いている。語彙として「奨励」を望む方が60%を占める点が注目される。

設問2-4～9では、「acquaintance」、「in particular」、「a world fellowship」、「as an opportunity」、「in each

ガバナー協議会・綱領等翻訳問題調査研究小委員会メンバー

	氏名	地区(クラブ) ガバナー年度
委員長	鳥居 滋	第2690地区(岡山東)2008-09
委員	坂本 俊雄	第2750地区(東京八王子南)2007-08
委員	片山 主水	第2760地区(名古屋東南)2008-09
委員	松宮 剛	第2780地区(茅ヶ崎湘南)2004-05
委員	岩本 忠	第2630地区(伊勢)2009-10
委員	橋本 長平	第2650地区(京都東)2007-08
委員	横山 守雄	第2660地区(大阪中央)2008-09
顧問	廣畑 富雄	第2700地区(福岡西)2005-06

Rotarian's personal, business and community life」、「business and professional」などの語彙についても設問を設けた。

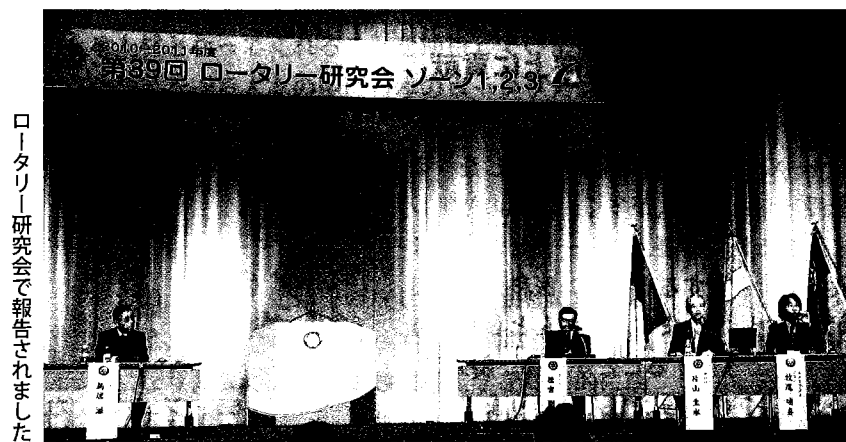
更なる検討を重ねる

いただいたご意見を参考に、小委員会においてさらに意見交換と調査研究を重ねることになっている。ご意見を当該小委員会までお寄せくださるようお願いしたい。

今回の各設問には、「その他」の項があり、書き込みにより多くの貴重なご意見を頂戴している。これらの所見は小委員会に開示し、今後の調査研究に生かしていきたいと考えている。

なお、ロータリー研究会でのパネル討論では、日本全国のクラブを対象にした「綱領の翻訳」に関するアンケート調査を実施した結果の私からの発表と同時に、パネリストの松宮剛氏(茅ヶ崎湘南RC)からは、「綱領」の日本語訳にさらにくだけた意識を採用してはどの提言もいただいた。また、パネリストの片山主水氏(名古屋東南RC)は、「現行の日本語訳はなかなかよくできており、ロータリーを何十年もやっていると今の綱領が身に染み付いている。身に染み付いたものは変えずに残しておいた方がよいのではないか」というご意見を述べられた。最後に「大阪ネクストRC」創立会長であるパネリスト牧尾晴喜氏(大阪ネクストRC)は、新世代のロータリアンを代表して、若い世代が現在の綱領の和訳をどのように捉えているか、について話された。

今後、「綱領」の和訳やその他のRI文書の翻訳問題については、近藤RI理事のご指導とガバナー協議会のご指示を仰ぎながら、綱領等翻訳問題調査研究小委員会において、引き続き調査研究を行い、ロータリー研究会やその他の機会に、その結果を公表する予定である。特に、綱領の和訳で関心が高い、「the object of Rotary」、「the ideal of service」、「文法的解釈の問題」、「現綱領英文の歴史の変遷」については、担当委員によるレビューを改めて公開する。この機会に、当該調査研究小委員会では、ロータリアン各位のご意見、アドバイスや提言も含め、積極的なご連絡をお願い申し上げます。



ロータリー研究会で報告されました